
妖精の神が生きる道

ユナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖精の神が生きる道

【Nコード】

N1817Y

【作者名】

ユナ

【あらすじ】

鉄骨につぶされて、転生することになった私。まあ、とりあえず一生懸命生きてみよう。あ、その前に修行だな。死なないためにも。当分フェアリーテイル関係ないです。ものすごい下手です。それでもいいという心優しい人は、読んで頂けるとうれしいです。

妖精の神が生まれる前（前書き）

下手な小説です。それでもいいという心優しい人は読んでくれると嬉しいです。

妖精の神が生まれる前

「危ない!!」

上から声が聞こえる。何が危ないんですか？そう聞こうとしたとき、何か大きいものが落ちてくるのに気がついた。鉄骨だ。避けなくては。頭では理解していている。でも、怖くて動けない。逃げなくては。逃げなくては。

ドサッ

あ……れ……？からだか……う……ごけない……？

「女の子が鉄骨につぶされたぞ!」「誰か!救急車を!」

大丈夫。そんな簡単なことが言えない。なんで？なんで？そして……私は意識を手放した……。どこかに引つ張られるような感覚を持ちながら。

「あれ……？」

何故、感覚があるんだろう。私は死んだはずなのに。

「おー、起きたか。」

「だれ……？」

「俺はイーリス！神だ！よろしく！」

私は、とうとう頭がおかしくなってしまったのだろうか。それとも、この目の前にいる人間の頭がイカれているからなのだろうか。いや、きつとそうに違いない。

「いや、違うから！お前の頭がおかしくなったわけじゃないし、ましてや俺の頭がイカレ

ているわけじゃないから！俺、本当に神だから！」

「はいはい、それで、自称神が私に何のよう？」

意味がないとゆうことだけは、絶対にならないだろう。

「自称じゃない！つて、話がずれたな。話を戻そう。お前は、鉄骨でつぶされた。本当は、記憶喪失だけですんでいたはずだったんだ。しかし、お前は打ち所が悪く、死んでしまった。そこで、お前にはフェアリーテイルの世界に転生してもらおう。」

「え・・・マジ？」

「うん。マジ。」

「フェアリーテイルといったら、私が一番好きなアニメじゃないか！」

「ああ、あと、そこで生きるための願いや質問は、いくらでも受け付けるぞ！」

「えーと、それじゃあね、カードキャプターさくらのクロウカード全52枚をまずちょうだい。」

「了解。あ、でもさあ、」

「何？」

「俺が出来る転生は赤ちゃんからだから、これ、どう渡す？」

「ああ、それじゃあさあ、クロウカードを私の体内に取り込んで、能力系の魔法として使えないかな。ハッピーの「エーラ」みたいにさ。」

「それなら可能だな。んじゃ、これ。」

「これ、なに？」

出てきたのは、透明な、グミみたいなもの。

「ああ、俺は、道具以外のものは、こうやって渡すことにしているんだ。」

「ふーん。ま、どうでもいいや。いただきます。」

「で、他に欲しいものは。」

「めんどいから一氣に言うよ。念じたら、その通りのものが出来る能力。あと、治癒魔法。あと、フェアリーテイルの世界での語学の知識と、様々な魔法に関する知識。あと、身体能力は、最高レベルにまであげといて。他には、アースランドで1番の魔力。そのままじゃかなり危ないから、封印できる魔法もつけといて。あと、治癒のスピードを、格段に上げといて。それと、絶対的な記憶力。それと、フェアリーテイルのアニメの知識は、放送されるたびに頭に入らせといて。そのくらいかな。」

「そのぐらいつて・・・。」

「イリスが、私をあきれたような目で見る。まあ、多すぎたかもしれないな。ま、いつか。」

「ああ、あとおまけがもらえるぞ。」

「おまけ？」

「そ、おまけ。俺に会いたいと思いながらねると、俺に会える。」

「ふうん。でも、何でそんなものがあるの？」

「能力を変更したかったりするだろ。その時のためだ。」

「ああ、あとさ、何で私の記憶つて、あやふやなの？」

「鉄骨につぶされたとき、軽い記憶喪失になったみたいだな。」

「へえ。」

「ああ、あと、お前の名前と容姿、どうする？」

「名前はルエ。名字はどうでもいい。容姿は目と髪の色は茶色。」

「了解。ああ、あと、これやるの忘れてた。」

「ああ、この透明なグミみたいなのやつ、また出てきた。ま、食べよう。」

「食べ終わったみたいだな。それじゃあな。」

「バイバイ。イリス。」

言い終わった瞬間、私から光りが発せられ、そのまま意識を失った。

妖精の神が生まれる前（後書き）

読んで頂き、ありがとうございました！

妖精の神が産まれたとき(前書き)

前にも増して下手になってるーーーー!!

前みたいに光が出て、意識が遠のいてきた。

「ああ、あと、お前の近くに他の転生者が2人いるから」

え・・・、おい

「ちょっとまってや-----!!!!!!」

妖精の神が産まれたとき（後書き）

読んでくれた人、ありがとうございました！！

妖精の神が目覚めたあと（前書き）

矛盾している・・・

の前に服をきがえましょうね！」
「はい。」

「それが、10年後に至上最強とつたわれた妖精の神とチームメイ
トとの出会いでした。」

妖精の神が目覚めたあと（後書き）

ここまで読んでくださり、ありがとうございます！

妖精の神と1人目の親友との出会い(前書き)

前よりは多少うまくできたかな・・・？

妖精の神と1人目の親友との出会い

洋服に着替えた私は、3つ隣の家に向かっていた。ティナとゆう名の女の子に会いに行く。同じ年らしいけど、精神年齢は私の方が上なんだよな……。仲良くできるだろうか。でも、その子が転生者だったらまだマシかな……。(とゆう淡い期待をかけてみる。)と、考えているうちに、着いたみたいだ。

「おじやましまーす。プローランスです。」

「あ、いらっしやい。おや、ルエちゃん、いらっしやい！ティナ！ルエちゃんが遊びに来たよ！」

「はい！」

そうやって来たの女の子は……

「(か、かわいい！)」

お人形みたいだった。マジで。

「初めまして。ティナ・ルミネーナです。」

「初めまして。ルエ・プローランスです。」

なんとなく、私に似ていた。そして、なんとなくこう思った。

「(この子は、転生者かもしれない……。)」

「よろしくね、ルエちゃん！」

「こっちこそよろしくね、ティナちゃん！」

「あらあら、すっかり仲良くなっちゃって。」

「ティナ、お部屋で遊んで来なさい。」

「わかった！ルエちゃん、お部屋いこ！」

「うん！わかった！」

—これが、妖精の神と1人目の親友との出会い。

妖精の神と1人目の親友との出会い（後書き）

感想、お願いします！

妖精の神と2人目の親友との出会い（前書き）

前の話と微妙に似ている・・・。

妖精の神と2人目の親友との出会い

「バイバイ、ティナちゃん！」

「ルエちゃん、バイバイ！また明日ー！」

すんごい楽しかった。何でだろうな。前は人と遊ぶより本とか読んでる方好きだったんだけどなあ。

「ルエ、どうしたの？」

「ううん。ちょっと考え事してただけ。」

「そう。それじゃあ、今からカイトに会いに行きましょうね。」

「はい。」

ぼてぼてと歩いていたら家に着いた。ここはどこにいるんだろう。そんなことを考えているとお母さんがドアを開けた。

「さあ、ここよ。」

入ると、ベビーベッドがあって、その中に赤ちゃんがいた。目をぱつちりと開けて、「なんだなんだ」みたいな感じで私を見ている。

「（あれ？）」「何か、違う。」

「どうしたの？」

「ううん。何でもない。」

―これが、妖精の神と2人目の親友との出会い。

妖精の神と2人目の親友との出会い（後書き）

読んでくれてありがとうございます！出来たら感想お願いします！

妖精の神の母の日記（前書き）

お母さんの日記です。

妖精の神の母の日記

x月+日

今日、私の子が生まれた。名前はルエ・プローランス。女の子だ。どんな子に育つのだろう。将来が楽しみ。

x月 日

ルエが産まれてから約1週間がたった。一昨日の昼に寝てから、今日の夜になっても起きない。さすがに寝すぎだと思つた私たちが医者に診せたところ、一種の眠り病だと言われた。治療法は分からないらしい。いつ、起きるのだろうか。

月x日

あの子が眠つてから、約5カ月がたった。近くに、ルエより1カ月遅れて産まれた女の子が引越してきた。ルエが起きたら紹介したい。ああ、あと、その子の名前はティナ・ルミネーナと言つらしい。

x月 日

あの子が眠り始めて丁度1年がたった。まだ、目覚める気配は一行にない。早く目覚めてね。

月 日

今日、ルエに弟が出来た。名前はカイト・プローランス。元気な男の子だ。この子には、眠り病にかかって欲しくない。それに、早くルエにも目覚めてもらいたい。

月 日

今日、やっと、やっと、ルエが目覚めた。カイトは不思議そうな顔をしていただけだ。

ただ、何故、「ちょっとまてやー……」と叫びながら起きたのかしら。まあ、あの2人と仲良くしてくればいいのだけれど。

妖精の神の母の日記（後書き）

ありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1817y/>

妖精の神が生きる道

2011年11月8日18時11分発行